

商品CFD取引契約締結前交付書面 新旧対照表

平成26年1月18日

(下線部分変更)

旧	新
<p>商品CFD取引のリスク等重要事項について 商品CFD取引のリスクについて</p> <p>・本取引は、原資産の価格を参照して行う取引であるため、原資産の価格の変動により損失が生ずることがあります。また、取引金額がその取引についてお客さまが預託すべき証拠金の額の20倍の額までのお取引(レバレッジ20倍)を行うことが可能です。</p> <p>1 単位のお取引をしますと相場が1ドル変動した場合、1ドルの利益・損失が出ることになります。 (※原資産が原油・銀の場合は、相場が1ドル変動した場合、10ドルの利益・損失が出ることになります。) 取引に必要な証拠金が、取引額の5%であるのに対して、利益・損失は、取引額を基準に発生しますので、ご留意ください。</p> <p>・原油先物の1日の高値と安値の価格差の過去10年間（<u>本書の作成日又は最終改定日</u>を起点とします。以下同じ。）の平均は約2ドルです。</p>	<p>商品CFD取引のリスク等重要事項について 商品CFD取引のリスクについて</p> <p>・本取引は、原資産の価格を参照して行う取引であるため、原資産の価格の変動により損失が生ずることがあります。また、取引金額がその取引についてお客さまが預託すべき証拠金の額の20倍の額までのお取引(レバレッジ20倍)を行うことが可能です。</p> <p>1 単位のお取引をしますと相場が1ドル変動した場合、1ドルの利益・損失が出ることになります。 (※原資産が原油・銀の場合は、相場が1ドル変動した場合、10ドルの利益・損失が出ることになります。) 取引に必要な証拠金が、取引額の5%であるのに対して、利益・損失は、取引額を基準に発生しますので、ご留意ください。</p> <p>・原油先物の1日の高値と安値の価格差の過去10年間（<u>2013年9月末時点</u>を起点とします。以下同じ。）の平均は約2ドルです。</p>

旧	新
商品CFD取引の仕組みについて (新設)	<p>商品CFD取引の仕組みについて</p> <p>1. 商品CFD取引の概要</p> <p><u>(4) 株価指数CFDにおいて、決済期日を設けていないため、当社が定める日に建玉を保有していた場合、当社で定めた価格調整額が発生します。</u></p> <p><u>価格調整額は原資産の最終取引日を迎える前の当社が定める日において、期近と期先の価格差をもとに算出いたします。</u></p> <p>なお、<u>価格調整額の計算式は以下の通りです。</u></p> <p><u>買建玉：(期近銘柄(※1)CFD終値(MIDレート) - 期先銘柄(※2)CFD終値(MIDレート)) × 取引単位 × コンバージョンレート</u></p> <p><u>売建玉：(期先銘柄CFD終値(MIDレート) - 期近銘柄CFD終値(MIDレート)) × 取引単位 × コンバージョンレート</u></p> <p><u>※1 期近銘柄とは、価格調整日(※3)の直近の一定期間においてカバー取引を行う上で最も流動性が高かった原資産の銘柄を意味します。</u></p> <p><u>※2 期先銘柄は、価格調整日を挟んで、以降の一定期間においてカバー取引を行う上で最も流動性が高いと考えられる原資産の銘柄を意味します。</u></p>

旧	新
	<p><u>※3 價格調整日は原資産となる限月の期日が訪れるまでの当社が定める日を指します</u></p>